

2026 年 9 月 4 日

学 校 法 人 山 口 学 園
ECC アーティスト美容専門学校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会

ECC アーティスト美容専門学校 学校関係者評価委員会報告書

学校法人山口学園 ECC アーティスト美容専門学校 学校関係者評価委員会は、2026 年 9 月 4 日に学校関係者評価委員会を開催しましたので、以下のとおり報告いたします。

1. **開催日時**：2026 年 9 月 4 日（金）16:30～18:20
2. **場 所**：ECC アーティスト美容専門学校（1 号館 201 教室）
3. **参加者**：学校関係者評価委員（「ECC アーティスト専門学校 学校評価実施規定」選出区分

【関連業界等関係者「第 12 条第 1 項（1）」】

大久保 紀子 氏（一般社団法人ジャパン・ビューティメソッド協会）

荒川 悠子 氏（株式会社ガモウ関西）

竹村 辰則 氏（株式会社 thsd-5）

【卒業生「第 12 条第 1 項（2）」】

中野 りか 氏（ECC アーティスト美容専門学校卒業生）

【保護者または地域関係者「第 12 条第 1 項（3）」】

中上 隆雄 氏（済美地域社会福祉協議会 会長）

堤 恵 氏（保護者代表）

【その他校長が必要と認める者「第 12 条第 1 項（4）」】

貴治 康夫 氏（高等学校教員）

【同席者】

中村 竜二（ECC アーティスト美容専門学校 校長）

川添 雅英（ECC アーティスト美容専門学校 副校長）

長尾 邦光（ECC アーティスト美容専門学校 キャリアセンター責任者）

下西 智也（ECC アーティスト美容専門学校 入試課責任者）

磯部 満理奈（ECC アーティスト美容専門学校 専任教員）

山崎 ひろみ（ECC アーティスト美容専門学校 教務課）

2025 年度自己評価報告書に基づく概要説明および課題点の共有

■領域Ⅰ「専修学校専門課程の目的及び学習成果」の報告（川添・長尾）

- 学校の教育目標として「美容業界希望者全員就職」「長く活躍する人材育成」を掲げ、専門力・国際力・人間力・ICT 活用力の 4 つの力を育成している。
 - 学生アンケートでは、「力のつく授業」「担任満足度」「学校生活満足度」のすべてで高水準を維持している。
 - 外部コンテストでは JBMA ヘアメイクアップコンテスト準グランプリなど各種受賞実績を獲得した。
 - 就職希望者の内定率 100%を達成し、美容業界への就職率も高い水準を維持している。
 - 卒業生アンケートや企業評価を教育課程へ反映し、学習成果の向上に努めている。
-

■領域Ⅱ「教育課程及び教育方法」の報告（川添）

- ディプロマポリシーを学生・保護者・教職員へ周知し、育成人材像を明確化している。
 - 教育課程編成委員会を年 2 回開催し、企業・業界団体からの意見をカリキュラムへ反映している。
 - 外部講師による授業、企業連携、インターンシップを通じて実践的教育を実施している。
 - 学校教育法改正への対応として単位制へ移行し、自主的な学習を促進する体制整備を進めている。
 - 業界ニーズや技術動向を継続的に調査し、教育内容の更新に取り組んでいる。
-

■領域Ⅲ「教育上の基本となる組織」の報告（中村）

- 専任教員および業界現役講師を配置し、実践的な学習環境を整備している。
 - トータルビューティ基礎学科（1 年制）を継続展開し、進路未決定層のニーズに対応している。
 - 毎週全教職員ミーティングを実施し、部署間の情報共有を推進している。
 - 教職員研修や技術研修を継続するとともに、AI 活用に対する知識・スキル向上についても検討を進めている。
-

■領域Ⅳ「学修環境」の報告（川添）

- 美容室型実習室、ネイルサロン型実習室、メイク教室など専門教育施設を整備している。
 - 2026 年度より教室清掃管理を紙ベースへ変更し、衛生・美化意識の向上を図った。
 - クラス担任制度を軸に、教務課・キャリアセンター・保護者との連携による学生支援を実施している。
 - 学習意欲低下への早期対応と継続的なモチベーション維持が課題となっている。
 - 2026 年度より合理的配慮制度を整備し、配慮が必要な学生への支援体制を構築した。
-

■領域Ⅴ「学生定員管理及び経営管理」の報告（中村）

- 2026 年度専門課程入学者数は前年の 1.1 倍となり、高等部からの内部進学者も増加している。
 - 少子化環境下においても全体として入学者数は増加傾向にある。
 - 一部学科では定員充足率に課題があり、今後学科定員の見直しも検討している。
 - コンプライアンス研修およびハラスメント研修を継続実施している。
 - 財務管理・監査・情報公開については規程に基づき適正に実施している。
-

■領域Ⅵ「内部質保証」の報告（川添）

- 自己点検評価により抽出された課題について、各部署で改善計画を策定・実施している。
- PDCA サイクルを強化し、改善状況を継続的に検証する体制づくりを進めている。
- 授業アンケート・授業見学・教員面談を通じて教員の指導力向上を図っている。
- FD 研修や企業研修を継続実施し、教員の専門性と教育力の向上を推進している。
- 今後は体系的な教員研修制度の構築が課題である。

協議事項

■「学生継続率の向上」に関する意見

貴治様：学生が進学時の目的意識やモチベーションを維持できるよう、入学前から学校への期待や目標を明確化することが重要である。

荒川様：授業の目標や学習成果を見える化し、自身の成長を実感できる仕組みがモチベーション維持につながる。

竹村様：若年層は否定的な指導に弱い傾向があり、まず承認・肯定したうえでの支援。丁寧なコミュニケーションが必要。

中上様：学校に行きたくても行けない学生に対しても居場所づくりや安心できる環境整備が必要ではないか。

堤 様：保護者への早期連携により、学生本人とは異なる視点から状況把握ができ対処につながるため、学校と家庭の連携強化が重要。

中野様：コミュニケーション能力や基本的な挨拶習慣・時間管理など、人間力育成をめざす授業を取り入れることで継続率向上につながるのでは。

大久保様：生活習慣の乱れが休退学の要因となるケースも多く、時間管理や生活指導の強化によって効果を得られた事例がある。

■「業界定着率・卒業後の活躍」に関する意見

荒川様：業界全体では離職率改善傾向がみられる(待遇の改善による)が、就職先を十分理解せず決定することによるミスマッチが課題となっている。美容業界の多様なキャリアパスを在学中から伝え、職業理解を深める必要がある。

竹村様：長く活躍する人材には継続力が重要であり、小さな成功体験を積み重ね自己肯定感を高めることで養っていける力。在学中に身につけてほしい力としては言葉遣い。言い方・受け止め方で損をしている。社会人基礎力が職場定着に大きく影響する。

中上様：ボランティア活動等を通じ、多世代との交流機会を持つことは社会性向上につながる。

中野様：自分を客観視する力や自己理解を深めることが、適性に合ったキャリア形成と長期定着につながる。

貴治様：技術力だけでなく、国際感覚やコミュニケーション力も長期活躍に必要な資質である。

堤 様：姿勢や身だしなみ、整理整頓など日常習慣の指導が人材育成につながっている。子どもは思った以上に先生に言われたことを覚えている。先生からどんどん指摘・発信してほしい。

■「合理的配慮への対応」に関する意見

貴治様：学校が対応できること・できないことを入学前から明確に説明することが重要。学校の支援方針を本人・保護者と共有しながら進めていく。中学校や高校からの引継ぎ、保護者との事前相談を丁寧に行う体制づくりが望ましい。

■「ハラスメント防止・相談体制」に関する意見

荒川様：校内だけでなく外部相談窓口も設けることで、相談しやすい環境を作ることができる。特定の担当者だけではなく、複数の相談先を設置することが望ましい。学生同士が相談できる仕組みやピアサポート的な仕組みも有効ではないか。

貴治様：教職員に対しても複数の相談窓口を整備し、安心して相談できる環境づくりを進めることが重要である。(貴治)

今回の議事を踏まえて、の具体的な取り組みを次回の学校関係者評価委員会で提示してまいります。